

科目 No.46

分野	専門分野	科目	領域横断：家族看護学																																						
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 16 時間（8 回）	配当時期	1 年全期																																				
講師名	藤木美春	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務																																						
<p>【科目のねらい】</p> <p>地域に根差した看護を担う看護職にとって、家族に着目することは非常に重要なことです。環境の変化に伴い、家族のありようは常に変化し、さらに個別性が強いものです。家族の補完的機能やセルフケア能力で課題解決し家族は成長していきますが、家族を構成するメンバー（家族成員）の健康問題は家族にさまざまな影響を及ぼします。</p> <p>家族看護学を早期に学習するのは、家族全体を視野に入れて看護を考える視点を持つためです。家族論で学んだことを活かして家族への看護について様々なケースから学んでいきましょう。ここで学びは専門分野の各看護学において対象及び家族への看護を学ぶ基礎となるでしょう。</p>																																									
<p>【目的】家族看護の意義と家族機能を促進する看護を実践する基礎を理解し、専門分野の各看護学の基盤を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族看護を学ぶ意義や看護職の役割を説明することができる。</li> <li>2. 家族を援助するときの基本姿勢について考察し具体的に表現することができる。</li> <li>3. 家族に変化をもたらすための介入について述べるることができる。</li> <li>4. 事例演習を通して家族看護に関する気づきを表現することができる。</li> <li>5. 家族を単位とした根拠に基づく看護の重要性について考察することができる。</li> </ol>																																									
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>																																									
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>家族看護とは 身近な事例で家族への看護の意義を考えよう</td> <td>講義 演習 ポストテスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>家族看護における看護職の役割と援助姿勢 家族看護を支える理論と介入法 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論、役割理論</td> <td>講義 ポストテスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>家族看護展開の方法 家族看護、多職種連携、家族のアセスメントモデル</td> <td>講義 ポストテスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>事例演習：</td> <td rowspan="3">演習</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>乳児の家族への看護</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>高齢者介護を行っている家族への看護 急性期・慢性期・終末期にある患者の家族への看護</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各事例への家族看護</td> <td>演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>発表と共有</td> <td>講義 ポストテスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>筆記試験</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回	学習内容	方法	備考	1	家族看護とは 身近な事例で家族への看護の意義を考えよう	講義 演習 ポストテスト		2	家族看護における看護職の役割と援助姿勢 家族看護を支える理論と介入法 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論、役割理論	講義 ポストテスト		3	家族看護展開の方法 家族看護、多職種連携、家族のアセスメントモデル	講義 ポストテスト		4	事例演習：	演習		5	乳児の家族への看護	6	高齢者介護を行っている家族への看護 急性期・慢性期・終末期にある患者の家族への看護	7	各事例への家族看護	演習		8	発表と共有	講義 ポストテスト			筆記試験		
回	学習内容	方法	備考																																						
1	家族看護とは 身近な事例で家族への看護の意義を考えよう	講義 演習 ポストテスト																																							
2	家族看護における看護職の役割と援助姿勢 家族看護を支える理論と介入法 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論、役割理論	講義 ポストテスト																																							
3	家族看護展開の方法 家族看護、多職種連携、家族のアセスメントモデル	講義 ポストテスト																																							
4	事例演習：	演習																																							
5	乳児の家族への看護																																								
6	高齢者介護を行っている家族への看護 急性期・慢性期・終末期にある患者の家族への看護																																								
7	各事例への家族看護	演習																																							
8	発表と共有	講義 ポストテスト																																							
	筆記試験																																								
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>基礎分野の家族論で学習した内容が家族看護学の土台となります。しっかりと復習しておきましょう。</p>																																									

<p>課題レポート：夏季休暇中にみなさんの家族に「大切な家族が病気になった時、家族は看護師にどのように看護してほしいか、家族にどのように関わってほしいか、それはなぜか」などインタビューした上で、1 回目までに「看護の対象に家族を含む理由について」、インタビュー内容の要約及び自分の考えを事前にレポートにまとめて持参してください。</p> <p>2 回目までに「家族を援助するときの基本姿勢」について自分の考えを事前にレポートにまとめ持参してください。</p> <p>課題レポートはグループディスカッションで活用していきます。課題レポートは授業終了後、提出となります。</p>
<p>【使用するテキスト】</p> <p>上別府圭子著 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院 2023</p>
<p>【参考文献】</p> <p>鈴木和子他著 家族看護学 理論と実践 第 5 版 日本看護協会出版会 2019</p>
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（20 点）、課題レポートを含む演習への取り組み（40 点）、筆記試験（40 点）</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>
<p>【受講上の注意】</p> <p>16 時間科目です。つまり自己学習が 29 時間となります。事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p> <p>自己学習時間を活用して、グループで協力しながら事例演習を行っていきましょう。</p>

科目 No.47

分野	専門分野	科目	領域横断：対象理解と健康生活への支援																																																						
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年後期																																																				
講師名	森下美香	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務																																																						
<p>【科目のねらい】</p> <p>看護の対象である人間を、ライフステージ各期の成長発達の側面から理解し、対象の特性に応じた国の施策や各発達段階に応じた学習支援について学んでいく科目です。</p> <p>特に 8 回目以降は事前課題をもとにした反転授業を行い、演習を通して各発達段階における健康生活への支援を皆でディスカッションすることで、様々な考えに触れ視野を広げる機会にしていきたいと思います。</p>																																																									
<p>【目的】健康支援の基本的考え方や対象の特性に応じた健康生活への支援や健康増進への看護の基礎を理解し、専門分野の各看護学の基盤を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の概念を説明することができる。</li> <li>2. 健康への学習支援の意義を説明することができる。</li> <li>3. ライフステージの成長発達の特徴を具体的に述べるすることができる。</li> <li>4. 健康を守る法律や施策の概要を列記することができる。</li> <li>5. 発達の特徴を踏まえて健康課題への学習支援について考察することができる。</li> </ol>																																																									
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>																																																									
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>健康とは 健康支援に関わる意義 教育・指導・学習支援とは ICTを活用した保健指導</td> <td>講義 演習 ポストテスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td rowspan="2">ライフステージの成長発達と健康課題 発達理論（フロイト・ピアジェ・ハヴィガースト・エリクソン）</td> <td>講義 演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ポストテスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td rowspan="2">健康支援の基礎理論 ヘルスピーرفモデル、ヘルスプロモーション、成功体験モデル、ウェルネス、アンドラゴジー、コンプライアンスとアドヒアランスなど</td> <td>講義 演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ポストテスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td rowspan="2">ライフステージ各期の健康を守る法律と施策</td> <td>講義 演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ポストテスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>乳幼児の健康課題と支援</td> <td>事前課題 講義 演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>学童期・青年期の健康課題と支援</td> <td>事前課題 講義 演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td rowspan="2">成人期の健康課題と支援</td> <td rowspan="2">事前課題 講義 演習</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>11</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>高齢者の健康課題と支援</td> <td>事前課題 講義 演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td rowspan="3">事例演習 母性・小児・成人・老年の事例を通して健康増進に向けた学習支援について考える 演習の成果をロールプレイ等で発表し共有する</td> <td rowspan="3">演習</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>14</td> </tr> <tr> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>						回	学習内容	方法	備考	1	健康とは 健康支援に関わる意義 教育・指導・学習支援とは ICTを活用した保健指導	講義 演習 ポストテスト		2	ライフステージの成長発達と健康課題 発達理論（フロイト・ピアジェ・ハヴィガースト・エリクソン）	講義 演習		3	ポストテスト		4	健康支援の基礎理論 ヘルスピーرفモデル、ヘルスプロモーション、成功体験モデル、ウェルネス、アンドラゴジー、コンプライアンスとアドヒアランスなど	講義 演習		5	ポストテスト		6	ライフステージ各期の健康を守る法律と施策	講義 演習		7	ポストテスト		8	乳幼児の健康課題と支援	事前課題 講義 演習		9	学童期・青年期の健康課題と支援	事前課題 講義 演習		10	成人期の健康課題と支援	事前課題 講義 演習		11	12	高齢者の健康課題と支援	事前課題 講義 演習		13	事例演習 母性・小児・成人・老年の事例を通して健康増進に向けた学習支援について考える 演習の成果をロールプレイ等で発表し共有する	演習		14	15
回	学習内容	方法	備考																																																						
1	健康とは 健康支援に関わる意義 教育・指導・学習支援とは ICTを活用した保健指導	講義 演習 ポストテスト																																																							
2	ライフステージの成長発達と健康課題 発達理論（フロイト・ピアジェ・ハヴィガースト・エリクソン）	講義 演習																																																							
3		ポストテスト																																																							
4	健康支援の基礎理論 ヘルスピーرفモデル、ヘルスプロモーション、成功体験モデル、ウェルネス、アンドラゴジー、コンプライアンスとアドヒアランスなど	講義 演習																																																							
5		ポストテスト																																																							
6	ライフステージ各期の健康を守る法律と施策	講義 演習																																																							
7		ポストテスト																																																							
8	乳幼児の健康課題と支援	事前課題 講義 演習																																																							
9	学童期・青年期の健康課題と支援	事前課題 講義 演習																																																							
10	成人期の健康課題と支援	事前課題 講義 演習																																																							
11																																																									
12	高齢者の健康課題と支援	事前課題 講義 演習																																																							
13	事例演習 母性・小児・成人・老年の事例を通して健康増進に向けた学習支援について考える 演習の成果をロールプレイ等で発表し共有する	演習																																																							
14																																																									
15																																																									

	筆記試験		
<p><b>【準備学習内容】</b>          テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。          重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。          7回目までに看護における教育・指導・学習支援の意義について、レポートにまとめて下さい。課題レポートは7日目授業終了時に提出となります。          学習支援に関しては、教育学の学びが活用できます。          8回目以降は授業前の演習課題が提示されます。しっかり取り組み授業の演習に活かしていきましょう。          講義・演習では、事前課題や事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。          動画視聴：「目で見ることの保健」「目で見ると老年看護」を視聴し、健康生活への支援に対する自己学習に役立てましょう。</p>			
<p><b>【使用するテキスト】</b>          安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2021-2022          茂野香おる著 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 1 看護学概論 医学書院 2023          茂野香おる著 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 2 基礎看護技術 I 医学書院 2023          香春知永著 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 4 臨床看護総論 医学書院 2023</p>			
<p><b>【参考文献】</b>          舟島なをみ他著 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 2017          服部祥子著 生涯人間発達 人間への深い理解と愛情を育むために 第3版 医学書院 2020</p>			
<p><b>【評価方法】</b>          授業終了時のポストテスト（20点）、課題レポート及び演習への取り組み・成果（30点）、筆記試験（50点）          課題レポート、事前課題は指定された日時までに提出してください。          指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<p><b>【受講上の注意】</b>          法律や施策など難しいと感じやすいですが、分からない言葉は調べる、繰り返しの反復学習する、などの自己学習行動により理解につながります。          事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p>			

科目 No.48

分野	専門分野	科目	領域横断：健康レベルに応じた看護Ⅰ（急性期・回復期）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年後期
講師名	クレスポ亜沙美	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
	木下さゆり		専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
	黒木英恵		九州中央病院 看護副師長		
	阿比留千秋		九州中央病院 看護副師長		
	永田英子		浜江堂 三野原病院 教育担当師長 / 専任教員養成講習会修了・看護師 特定看護師（栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連）		
【科目のねらい】 看護実践において、病気や治療の影響、機能障害や主要症状を踏まえて看護を考えることと合わせて、対象の健康レベルの特徴を踏まえて看護を考えていくことは重要です。なぜならば、対象の健康レベルは常に変動しており、その変化の特徴に適した看護が求められるからです。 ここでは、健康レベル（急性期・回復期）の特徴とその時期に必要な看護の視点を学んでいきます。対象の発達の特徴と健康レベル（急性期・回復期）の特徴を踏まえて看護を考える基盤を養う機会にしていきたいと思います。					
【目的】様々な発達段階にある対象の特徴を踏まえ健康レベル（急性期・回復期）に応じた看護の基礎を理解し、専門分野の各看護学の基盤を養う。 【到達目標】 1. 健康問題を持つ対象の特性を理解し、各発達段階の特性を踏まえた急性期・回復期の看護について述べるができる。 2. 演習を通して急性期・回復期にある対象とその家族への看護を個人及びグループで考え実施することができる。 3. 急性期・回復期にある対象の看護を通して地域包括ケアシステムにおける連携の重要性について述べるができる。 4. リーダーシップ・メンバーシップを発揮し、主体的に演習に取り組むことができる。					
【DPとの関連】 DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。 DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。 DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容		方法	備考	
1	健康問題を持つ人の看護の基本的な考え方 健康問題を持つ対象理解の基盤となる有用な理論 健康レベル別看護の視点		講義 演習 ポストテスト	クレスポ亜沙美	
2	急性期にある対象とその家族の心理的特徴		講義 演習 ポストテスト	黒木英恵	
3	急性期にある子どもとその家族の特徴と看護		ポストテスト	木下さゆり	
4	事例演習Ⅰ：窒息・誤飲				
5	急性期にある成人とその家族の特徴と看護		講義 演習 ポストテスト	阿比留千秋	
6	事例演習Ⅱ：くも膜下出血				
7	急性期にある高齢者とその家族の特徴と看護				
8	事例演習Ⅲ：心不全		講義 演習 ポストテスト	永田英子	
9	回復期(リハビリテーション期)にある対象とその家族の心理的特徴				
10	回復期(リハビリテーション期)にある子どもとその家族の特徴と看護		講義 演習		

11	事例演習Ⅳ：骨折	ポストテスト	
12	回復期(リハビリテーション期)にある成人とその家族の特徴と看護	講義 演習	
13	事例演習Ⅴ：事故による下肢切断	ポストテスト	
14	回復期(リハビリテーション期)にある高齢者とその家族の特徴と看護	講義 演習	
15	事例演習Ⅵ：心不全	ポストテスト	
	筆記試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>3 回目～15 回目までは、事例演習Ⅰ～Ⅵがあります。演習までに、事例の健康障害があり、発達段階にある対象の特性を踏まえ、健康レベル（急性期・回復期）に応じた看護（対象とその家族）について調べ学習を行ない、事前にレポートにまとめておきましょう。課題レポートは、各事例演習終了後、提出となります。</p>			
<p>【使用するテキスト】</p> <p>香春知永他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 4 臨床看護総論 医学書院 2023</p>			
<p>【参考文献】</p> <p>川島みどり他監 臨床看護学 2 経過別看護 第2版 メヂカルフレンド社 2011</p> <p>疾病と治療のテキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 2023</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（35点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（30点）、筆記試験（35点）</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p>			

科目 No.49

分野	専門分野	科目	領域横断：健康レベルに応じた看護Ⅱ（慢性期・終末期）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年後期
講師名	浜谷千枝子	所属および実務経験	白十字病院 課長／がん看護専門看護師		
	木下さゆり		専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
	三宅ひとみ		九州中央病院／緩和ケア認定看護師		
【科目のねらい】					
<p>看護実践において、病気や治療の影響、機能障害や主要症状を踏まえて看護を考えることと合わせて、対象の健康レベルの特徴を踏まえて看護を考えていくことは重要です。なぜならば、対象の健康レベルは常に変動しており、その変化の特徴に適した看護が求められるからです。</p> <p>ここでは、健康レベル（慢性期・終末期）の特徴とその時期に必要な看護の視点を学んでいきます。対象の発達の特徴と健康レベル（慢性期・終末期）の特徴を踏まえて看護を考える基盤を養う機会にしていきたいと思います。</p>					
【目的】様々な発達段階にある対象の特徴を踏まえ健康レベル（慢性期・終末期）に応じた看護の基礎を理解し、専門分野の各看護学の基盤を養う。					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>健康問題を持つ対象の特性を理解し、各発達段階の特性を踏まえた慢性期・終末期の看護について述べるができる。</li> <li>演習を通して慢性期・終末期にある対象とその家族への看護を個人及びグループで考え実施することができる。</li> <li>様々な場で療養する慢性期・終末期にある対象への看護を通して、その人らしく生きることを支える看護について自分の考えを述べるができる。</li> <li>リーダーシップ・メンバーシップを発揮し、主体的に演習に取り組むことができる。</li> </ol>					
【DPとの関連】					
DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。					
DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。					
DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容		方法	備考	
1	慢性期にある対象とその家族の心理的特徴		講義 演習 ポストテスト	浜谷千枝子	
2	慢性期にある子どもとその家族の特徴と看護				
3	事例演習Ⅰ：気管支喘息				
4	慢性期にある成人とその家族の特徴と看護				
5	事例演習Ⅱ：慢性腎不全				
6	慢性期にある高齢者とその家族の特徴と看護				
7	事例演習Ⅲ：前立腺がん				
8	終末期にある対象とその家族の心理的特徴 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア、精神的安寧を保つためのケア		講義 演習 ポストテスト	三宅ひとみ	
9	終末期にある子どもとその家族の特徴と看護 事例演習Ⅳ：小児がん		講義 演習 ポストテスト	木下さゆり	
10					
11	終末期にある成人とその家族の特徴と看護 事例演習Ⅴ：膵臓がん		講義 演習 ポストテスト	三宅ひとみ	
12					
13	終末期にある高齢者とその家族の特徴と看護		講義		
14	事例演習Ⅵ：肺がん		演習		
15	エンゼルケアの実際		ポストテスト		

	筆記試験		
<p><b>【準備学習内容】</b>          テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。          重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。          2回目～14回目までは、事例演習Ⅰ～Ⅵがあります。演習までに、事例の健康障害があり、発達段階にある対象の特性を踏まえ、健康レベル（慢性期・終末期）に応じた看護（対象とその家族）について調べ学習を行ない、事前にレポートにまとめておきましょう。課題レポートは、各事例演習終了後、提出となります。15回目の「エンゼルケアの実際」は、基礎看護技術Ⅱ 第13章です。</p>			
<p><b>【使用するテキスト】</b>          香春知永他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 4 臨床看護総論 医学書院 2023          任和子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2023</p>			
<p><b>【参考文献】</b>          川島みどり他監 臨床看護学 2 経過別看護 第2版 メヂカルフレンド社 2011          疾病と治療のテキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 2023</p>			
<p><b>【評価方法】</b>          授業終了時のポストテスト（30点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（30点）、筆記試験（40点）          課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<p><b>【受講上の注意】</b>          事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p>			

科目 No.50

分野	専門分野	科目	領域横断：周手術期と看護		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期
講師名	出嶋愛	所属および実務経験	こども病院／手術看護認定看護師		
	沼田芳瑛		九州中央病院 /副看護師長		
	武田加奈子		九州中央病院 /看護師長		
	平田奈保美		浜の町病院 /看護師		
	角健太郎		藤崎うら泌尿器皮膚科/看護師		
【科目のねらい】					
<p>手術は生体への侵襲を伴う治療法で、その侵襲に対して人は脆弱であり、痛みを感じ、意欲が停滞し、不安や恐怖を抱く辛い体験をします。周手術期の看護では、手術侵襲の程度・侵襲に対する耐性・侵襲からの回復力などから総合的にアセスメントし、その人の持つ回復力をいかに引き出せるかが重要です。また、回復を促進するためには、根拠を踏まえた予測と予防の観点も重要となります。</p> <p>ここでは手術による影響が最小限で早期に回復できるよう支援することについて学び、対象の特徴を踏まえた周手術期の看護の基礎を身につけていきましょう。</p>					
【目的】周手術期における生体反応と看護、及び対象の特徴を踏まえた早期回復への支援についての基礎を理解し、専門分野の各看護学の基盤を養う。					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術療法や集中治療を受ける対象とその家族への看護の役割について述べるができる。</li> <li>2. 周手術期にある対象の心理的特徴や精神的苦痛と精神的援助の視点を述べるができる。</li> <li>3. 侵襲に伴う生体反応を列記することができる。</li> <li>4. 術後に起こりうる合併症の理解を踏まえて、合併症予防の看護について説明することができる。</li> <li>5. 根拠を踏まえて術後ベッドを作成することができる。</li> <li>6. 術後、回復過程にある対象や家族への生活の援助について説明することができる。</li> <li>7. 対象の特徴を踏まえた周手術期の看護のポイントを考察することができる。</li> </ol>					
【DPとの関連】					
DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づき、看護実践やリーダーシップを示すことができる。					
DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。					
DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。					
DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容	方法	備考		
1	周手術期の看護の概要と看護師の役割 1. 周手術期の看護 2. 周手術期にある患者の特徴 3. チーム医療と看護師の役割 4. インフォームドコンセント 5. 安全管理	講義 ポストテスト	角健太郎		
2	手術前・中・後における対象の心理的变化 1. フインクの危機モデル 2. アギユラとメズニックの問題解決型危機モデル 3. ボディイメージ 4. 障害の受容過程	講義 演習 ポストテスト			
3	手術侵襲と生体の反応 1. サイトカインの作用とホルモン作動 2. ムーアの回復過程の分類	講義 ポストテスト			
4	麻酔による侵襲 1. 麻酔とは 2. 全身麻酔と局所麻酔及び合併症 3. 術後合併症	講義 ポストテスト			
5	手術前における対象の看護 1. 外来看護師の役割（手術前の患者の看護） 2. 術前オリエンテーションと不安の緩和 3. 術後合併症のリスクアセスメント 4. 術前指導と術前訪問	講義	沼田芳瑛		

回	学習内容	方法	備考
6	手術中における対象の看護① 1. 手術室の安全管理 2. 入室前・入室時・麻酔導入時の看護 3. 手術中の看護 4. 手術終了時・麻酔覚醒時の看護 5. 病棟への引継ぎ	講義	沼田芳瑛
7	手術中における対象の看護② 1. 環境管理（感染予防・環境の浄化・機械類の安全管理と滅菌、消毒） 2. 感染予防 手術時の手洗い・手指消毒・ガウンテクニック	講義 演習 ポストテスト	
8	手術後における対象の看護① 1. 術後の回復を促進するための看護 2. 術後合併症の予防と発生時の対応 3. 創傷治癒の看護 4. 自己管理に向けた援助：セルフケアの再構築	講義 ポストテスト	武田加奈子
9	手術後における対象の看護② 1. 創傷処置の実際（創傷処置・ドレーンの管理） 2. 術後環境整備の実際（術後ベッドの作成）	演習	
10	集中治療を受ける患者の看護 1. 集中治療・看護とは 2. 集中治療を受ける患者・家族の特徴と看護	講義 ポストテスト	
11	3. 人工呼吸器装着中の看護	演習	
12	手術を受ける高齢者の看護 1. 高齢者の外科的治療 2. 高齢者の周手術期の看護 3. 手術前の看護	講義 ポストテスト	
13	4. 手術後の看護（手術が高齢者に与える影響・合併症予防と発症時に看護） 5. 退院に向けての援助	演習	
14	手術を受ける子どもと家族の看護 1. 小児の外科的治療 2. 小児の周手術期の看護 3. 手術前の看護 4. 手術後の看護 5. 家族に対する援助・指導	講義 ポストテスト	出嶋愛
15	手術を受ける性・生殖機能障害のある対象の看護 1. 性と性機能障害のある対象の特性 2. 症状とその病態に対する看護 3. 主な疾患（子宮がん・卵巣がんなど）とその看護 まとめ	講義 ポストテスト	平田奈保美
	試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>既習科目である解剖生理学、疾病と治療、薬理学の知識を前提として授業が進みます。授業範囲の予習復習をして臨みましょう。</p> <p>講義・演習では、事前課題・事後課題を提示します。しっかり準備して効果的な学習となるよう取り組みましょう。</p> <p>動画視聴：「目で見る周術期看護の基礎知識」：このシリーズの動画は授業前後の自己学習に活用してください。</p>			
<p>【使用するテキスト】</p> <p>矢永勝彦他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2023 北島政樹他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 2023 末岡浩他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 2023</p>			
<p>【参考文献】</p> <p>中島恵美子他編 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 2022 川島みどり他監 臨床看護学 2 経過別看護 第2版 メヂカルフレンド社 2011</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了時のポストテスト（35点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（20点）、筆記試験（45点） 課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<p>【受講上の注意】</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p>			

科目 No.51

分野	専門分野	科目	領域横断：薬物療法と看護		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期
講師名	森下美香	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
【科目のねらい】 看護師のヒヤリハット事象の最多数は「誤薬」です。ここでは薬理学と基礎看護技術Ⅳ（与薬）の学びを活かし、看護実践に役立つ知識・技術として統合することで、薬物治療における看護職の役割認識や臨床看護実践の基盤を養う機会にしていきたいと思います。					
【目的】薬物療法における看護職の役割を認識し、専門分野の各看護学における臨床看護実践の基盤を養う。 【到達目標】 1. 薬物療法における看護職の役割を列記することができる。 2. 薬品の体内動態と相互作用について説明することができる。 3. 薬物療法における対象のコンプライアンスとアドヒアランスの重要性について説明することができる。 4. 対症療法薬と看護について説明することができる。 5. 主要疾患の薬物療法と看護について説明することができる。 6. 薬物療法の安全管理や Medikation Error を踏まえ、与薬における看護の機能について説明することができる。 7. リーダーシップ・メンバーシップを発揮し、主体的に演習に取り組むことができる。					
【DPとの関連】 DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。 DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。 DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。 DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容	方法	備考		
1	薬物療法における看護師の役割 薬物療法と看護の基礎知識 医薬品の取り扱い	講義 演習 ポストテスト			
2	麻薬毒薬劇薬及び抗悪性腫瘍薬の管理 人体へのリスクが大きい薬剤の曝露予防				
3	薬物治療の実際 対象の発達的特徴や場に応じた看護のポイント				
4	事例演習 1 対症療法薬と看護（病態と分類・薬物療法の基本・看護師の役割）	講義 演習 ポストテスト	グループ学習を行う。メンバーシップを図りながら主体的に演習に取り組んでいきたいと思います。		
5	輸血用血液製剤の取り扱い				
6	まとめの発表と共有				
7	事例演習 2 主要疾患の薬物療法と看護（病態と症状・薬物療法の基本・看護師の役割・指導案作成など）	講義 演習 （ロールプレイ） ポストテスト			
8	簡易血糖測定、インスリン、抗生物質				
9					
10					
11	まとめの発表と共有				
12					
13	専門職連携協働（IPW）：薬剤師養成と看護師養成の学生間協同学習	演習		専門職連携教育（IPE）	
14	「高齢者の服薬の自己管理 薬剤師と看護師の連携」				
15	薬物療法における安全管理・ Medikation Error について	講義 ポストテスト			

	試験		
<p><b>【準備学習内容】</b>  薬理学や基礎看護技術Ⅳ（与薬）の学習を活用できるように復習しておきましょう。  テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。  重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。  13～14 回目は専門職連携について、学びます。事前に事例を提示します。看護の視点を持ち、テーマに対して思考し、グループの見解をまとめ、レポートしたものを持参してください。  動画視聴：薬の基礎知識 Vol.1 薬とは Vol. 2～5 主な疾患と薬(1)～(4)の動画を視聴しておきましょう。授業前後の自己学習に活用してください。</p>			
<p><b>【使用するテキスト】</b>  井上智子他編 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 2023  吉岡充弘他著 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院 2023  任和子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2023  近藤一郎他監 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 2022</p>			
<p><b>【参考文献】</b>  浦部晶夫他編 今日の治療薬 解説と便覧 南江堂 2022  医療情報科学研修所編 薬がみえる No1～No4 メディックメディア 最新出版年</p>			
<p><b>【評価方法】</b>  授業終了時のポストテスト（40点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（20点）、筆記試験（40点）  6回目終了後、対症療法における看護師の役割についてレポート提出し、12回目終了後、疾患に応じた薬物療法の指導案の提出。  課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<p><b>【受講上の注意】</b>  分からない言葉は調べて繰り返し反復学習するなどの自己学習行動により理解につながります。  グループ学習が効果的となるためにメンバーで円滑なコミュニケーションを図りながら取り組んでいきましょう。  事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。</p>			



科目 No.52

分野	専門分野	科目	領域横断：看護の思考				
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年全期		
講師名	藤木美春	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務				
	木下由理子		専任教員 / 医療機関において看護師として勤務				
【科目のねらい】							
<p>対象の発達の特徴やニーズ及び健康状態に応じた看護を実践し、対象中心の看護を創造していく上で、看護職には問題解決能力や実践力及び臨床判断力が求められます。そのような力を培うために、看護過程の展開や臨床判断の学習は重要な位置づけとなります。</p> <p>対象にとって何が重要かを見極める力をつける為に「看護師のように学ぶ」視点が大切です。ここでの学習は、各領域別の看護方法の土台となりますので、主体的に学んでいきましょう。</p>							
【目的】発達の特徴を踏まえて対象の反応を捉え、科学的根拠に基づき看護を思考していく基礎を習得し、専門分野の各看護学における基盤を養う。							
【到達目標】							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断のプロセスとそのポイントを説明することができる。</li> <li>2. 看護過程や臨床判断能力が必要な意義を説明することができる。</li> <li>3. 対象の反応、病態や治療の影響などを踏まえて健康状態を判断することができる。</li> <li>4. 一般論や理論を用いて、科学的根拠を踏まえて判断することができる。</li> <li>5. 対象の発達の特徴や家族の視点を踏まえて看護計画を立案することができる。</li> <li>6. 対象の持てる力を活かし、安心・安全な看護を追求することができる。</li> <li>7. 多職種との連携の視点と看護の役割を説明することができる。</li> <li>8. 対象中心の看護を根拠に基づき実践し、リフレクションから自己の課題を明確にすることができる。</li> </ol>							
【DPとの関連】							
<p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>							
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）							
回	学習内容		方法	備考			
1	領域判断（クリニカルジャッジメント）と臨床推論（クリニカルリーザニング）		講義 演習 ポストテスト	基礎看護学実習 Ⅱの前（前期） に受講します。 藤木美春			
2	臨床判断のプロセス（ターナーの4フェーズ）						
3	状況設定事例で臨床判断を体験 各看護学の方法へのつながりについて		講義 演習 ポストテスト	基礎看護学実習 Ⅱの後（後期） に受講します。 木下由理子			
4	基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）を終えて、改めて「看護過程とは」を考える 看護過程とクリティカルシンキング						
5	地域・在宅看護論、精神看護学、母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学における看護過程の展開の特徴		講義 演習 ポストテスト	基礎看護学実習 Ⅱの後（後期） に受講します。 木下由理子			
6	演習の導入						
7	演習：対象の特性、その人が暮らす地域特性を踏まえた看護過程の展開グループ学習まとめ発表と共有	事例1 妊娠高血圧のある妊婦（第2子妊娠中、第1子2歳）とその家族へ看護	講義・演習 ポストテスト	藤木美春			
8		事例2					
9		思春期のこころの健康と看護	講義 演習 ポストテスト				
10		事例3					
11		成人（肝硬変）とその家族への看護	講義 演習 ポストテスト			木下由理子	
12							

13		事例 4 高齢者（変形性膝関節症）とその家族（介護者）への看護	講義 演習	
14			ポストテスト	
15		まとめ	講義 演習 ポストテスト	
	試験（レポート試験）			
<p><b>【準備学習内容】</b>  看護過程の復習や基礎看護学実習Ⅱの経験と学びは、この科目の学び成立の要です。看護過程や基礎看護学実習Ⅱのリフレクションをし、この科目における自己目標を明確にしておきましょう。  自己の課題から必要と考えた学習内容については文献検索し、活用できるように準備しておきましょう。重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。  演習では、下記の事前課題を、演習前日までにC-ランニングへ提出してから、演習に参加してください。  事例 1 事前課題 ① 妊婦の健康相談・教育の実際（母性看護学各論） ② 親になるための準備教育 ③ 妊娠高血圧症  事例 2 事前課題 ① 思春期とは（小児概論・小児臨床総論） ② AYA 世代の問題（精神看護の基礎）  事例 3 事前課題 ① 肝硬変の基礎的知識（消化器） ② 成人期の発達課題（成人看護学総論）  事例 4 事前課題 ① 変形性膝関節症（老年看護病態・疾患論） ② 退院調整・退院支援（老年看護学）  演習時に課題レポートを提示します。</p>				
<p><b>【使用するテキスト】</b>  系統看護学講座 専門分野 専門基礎分野 全ての教科書 医学書院 2023</p>				
<p><b>【参考文献】</b>  瀬戸奈津子他監 事例で学ぶ疾患別看護過程 Vol.1 学研 2020  瀬戸奈津子他監 事例で学ぶ疾患別看護過程 Vol.2 学研 2020  エビデンスに基づく関連図シリーズ 中央法規出版</p>				
<p><b>【評価方法】</b>  授業終了時のポストテスト（30点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（70点）  事前課題及び課題レポートは、試験と同じ取り扱いです。指定された日時までに提出してください。  指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>				
<p><b>【受講上の注意】</b>  事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。  分からない言葉は調べて繰り返し反復学習するなどの自己学習行動により理解につながります。  グループ学習が効果的となるためにメンバーで円滑なコミュニケーションを図りながら取り組んでいきましょう。</p>				